

## 審議（会議）結果

### 審議会等名称

第3回神奈川県県土整備局指定管理者選定審査委員会都市公園部会

### 開催日時

令和3年4月21日（水） 9：00 ～ 16：30

### 開催場所

神奈川県庁新庁舎 12階県土整備大会議室

### 出席者【委員長・副委員長】

浦田 啓充【委員長】

飯島 健太郎【副委員長】

岡本 由美子

青木 利太

川島 裕子

### 次回開催予定日

令和3年4月22日

### 所属名、担当者名

都市公園課 計画グループ 中島

電話番号 045-210-6221（直通）

ファックス番号 045-210-8883

### 掲載形式

プレゼンテーション及びヒアリングの部分については議事録、選定評価の部分については議事概要

### 議事概要とした理由

本会議は、面接審査のうち、提案に係るプレゼンテーションと質疑応答については、「公開」とし、その後の「評価」を行う「協議」の部分については、指定管理者の募集・選定等に支障があると考えられることから、非公開により運営されたものである。

議事録を掲載することにより同様に指定管理者の選定に支障があると判断されることから、議事概要とした。

なお、第3回委員会と同様の内容で開催する第4回、5回の委員会についても、同様の扱いとするこ

ととした。

## 審議（会議）経過

### 1 会議の公開・非公開について

本会議の面接審査のうち、提案に係るプレゼンテーションと質疑応答の後の「評価」を行う「協議」の部分については、指定管理者の募集・選定等に支障があると考えられることから、附属機関等の設置及び会議公開等運営に関する要綱第6条の規定に基づき提案に係るプレゼンテーションと質疑応答を除き非公開とすることを決定した。

また、第3回委員会と同様の内容で開催する第4回、5回の委員会についても、同様の扱いとすることを決定した。

### 2 応募団体によるプレゼンテーション及びヒアリングについて

#### (1) 三ツ池公園① 神奈川県公園協会・石勝エクステリア・サカタのタネGSグループ

(委員) HANATOMOプロジェクトについては、診療内科に通う方への園芸療法を兼ねた作業とあるが、もう少し教えてほしい。

(応募団体) 花植えの植え付け会などをサカタのタネと一緒に開催を予定しており、相模原公園では、近所の病院等に声かけをして、そういったところに活用していただくように働きかけをしてくれた活動が進められているので、三ツ池公園でも近くの病院に話をして、役立てられるような取り組みができるよう考えている。

(委員) 障害者雇用率について不足があったようだが、現在はどうか。

(応募団体) 石勝エクステリアでは4月の時点で解消し、現在は法定基準を満たしている。

(委員) SDGs推進事業の積立資産とあるが、この資金は、三ツ池公園のためのものか、他の公園に共通して使っていくものか。

(応募団体) SDGs推進事業積立資産については、現在積立期間で、来年度から活用する予定である。安心安全に過ごせる公園管理、防災拠点としての公園管理、また生物多様性の保全といった、3つを目的に積み立てている。指定管理を受託できれば、安心安全に過ごせる公園管理を意図し、現地パンフレットやピクトグラム等について、その公園で資金を広く活用していきたいと考えている。また、生物多様性の保全として、三ツ池公園においては、桜の更新や樹林地管理に利用していきたいと考えている。そのため、全公園というよりは、ある程度絞って活用していく予定である。

(委員) 売店の営業は、現在、土日祝に営業しているが、今後はどうしていく予定か。

(応募団体) 今ある既存の売店に加えて、キッチンカーの誘致を考えている。メニューは、日常の賑わいづくりをイメージし、露店というよりレストランで提供するようなものと考えてい

る。

(委員) 桜の再生について、具体的に教えてほしい。

(応募団体) 桜の名所である三ツ池公園でも老木化等により、目視でも枯れ枝、花咲が悪くなっていることが分かる状態であり桜の名所100選の景観を維持していくために保全、更新を図っていきたいと考えている。

(委員) それは指定管理期間の5年のあいだで、成果があげられる内容のものか。

(応募団体) 1年目に市民の方、学識経験者の方を交えた会議を立ち上げ、2年目以降は順次更新を図っていく段取りである。今回の再生会議の計画では、指定管理期間である5年の短期的な維持管理計画を作る。その中で、剪定シミュレーションとして、保全に加えて、景観も良くしていく中で支障木になっているものや、剪定の際にどうすれば景観がより良くなるのかといったようなすぐに着手出来る短期的計画を策定し、それと同時に指定管理期間を越えて、接ぎ木等によって、多品種の桜が公園の中にあるので、そういった品種を保存しながら、どのように育てていくか、どういった形で捕植していくかを専門家の意見を聞きながら長期的な構想を検討している。

(委員) 有資格者の配置はどうか。

(応募団体) 樹木学の権威である東京農業大学の教授に打診をして内諾を頂いている。また、管理については、石勝エクステリアから植物管理プロデューサーという職の方を配置する予定であり、その方に植物の管理計画の策定や桜の保全再生計画の現場での指導をしていただくこと想定している。園長は、公園管理運営士のほか、グリーンアドバイザー、ビオトープ管理士の資格を有している。石勝エクステリアでは、樹木医が7名いるため、必要に応じて派遣する予定である。

(委員) 自主事業でカヌー体験教室を予定しているが、実現の可能性はどうか。

(応募団体) 石勝エクステリアが指定管理者として南町田の鶴間公園で商業施設との連携の中でアウトドアメーカーと提携をしているため、その実績のあるアウトドアメーカーには内諾をもらっており、NPO法人にも協力をいただける予定であり、実現可能性は高いと考えている。

(委員) 一回あたり5,500円とあるが、内訳は何か。また、需要はあるか。

(応募団体) まだこれから詰めていく段階ではあるが、保険代やジャケット等のレンタル料を考えるとそのくらいになる想定である。

カヌーが体験できるような場所は都会にはないので、ニーズはあると考えている。

## (2) 三ツ池公園② 三ツ池公園パートナーズ

(委員) パワハラ、セクハラの相談窓口はあるか。また、相談者への対応の流れを教えてください。

(応募団体) 相談窓口については、内部と外部に窓口を設置している。外部には匿名で電話をかけられるようになっている。その他、コンプライアンス推進者を配置し、スタッフの意見を年2回ヒアリングするよう努めている。その際にコンプライアンス違反があれば、規定に沿って調査をし、進めていく流れになっている。コミュニケーションを重要視しているので、話し合いをもって進める流れになっている。

(委員) 今までに相談を受けたことはあるか。

(応募団体) 大きなものはないが、日常の会話の中で、そういった発言があるので、その際は、面接や打合せの場面で話をしている。またコンプライアンスマニュアルを唱和しているので、それで防止に努めている。

(委員) グループのBiotopGuildが赤字続きだが、グループ全体で見れば問題はないのか。

(応募団体) 負担をかけないよう代表企業で責任の分担をしている。

(委員) BiotopGuildが立ち行かなくなっていて、グループから抜けざるを得ない状況は想定しているか。

(応募団体) 構成員の団体が変更になるので、そこは決議をいただいて、進めていかなければならないと理解している。

(委員) BiotopGuildが、業務の中でどのような役割を担っているか。

(応募団体) 環境教育と環境保全に特化した会社のため、新しく進める水辺の環境づくりや教育を担っていただく予定である。業務委託でも良かったが、パートナーに入ってもらい、しっかり協議を進めたいという思いで今回グループを組んだ。

(委員) 未病改善プログラムについて、どのように働きかけをしていく予定か。

(応募団体) 未病改善プログラムは、地域に愛される公園づくりをコンセプトにしているので、地域の施設には声をかけていく予定である。今回提案しているのは、誰でも参加しやすいプログラムになるので、様々な参加者に合わせたプログラムができるようにしていきたい。

(委員) 今までの指定管理の評価について、優良ではなく良好止まりだが、今後、どのように改善していく見込みか。

(応募団体) いただいた意見については、真摯に受け止め、内部でも改善できるようミーティングを重ねている。アンケート結果に基づき計画等を考えているので、今後は優良にすることが

できると考えている。具体的には、施設の老朽化の指摘が多いので、出来る限り改善をしていきたい。

(委員) 自主事業で新たにスワンボートの貸出を考えているようだが、実現の見込みなど、詳しく教えてほしい。

(応募団体) スワンボートについては、ボート10艘の確保はできている。棧橋については、自主事業なので設備投資をしていく形になる。安全面については、グループの中で実施している団体があるので、ライフジャケットを着用すること、事前に注意事項を周知することで配慮していく。

(委員) スワンボートによって景観が変わってしまうと思うが、その辺はどうか。

(応募団体) 三つある池のうち、スワンボートは中ノ池で行うことを想定している。環境保全と利用のバランスを考えていかなければならないので、BiotopGuildと協議しながら、適切に運営していきたい。下ノ池については、環境保全のエリアとして再生していくプログラムを想定しており、中ノ池については、子供の遊び場として楽しんでいただけるような仕組みを作りたいという考えから、今回スワンボートを提案させていただいた。

(委員) 提案書に桜の樹勢回復とあるが、現状と今後の方針について教えてほしい。

(応募団体) 現状は、桜の成熟化が見られ、衰弱していく状態にあるので、里親プロジェクトにより、苗木を植える等の活動をしている。桜は公園の景観の重要な部分なので、10年ほどのスパンで改善計画を提案したいと考えている。

(委員) 有資格者の配置はどのようになっているか。

(応募団体) 所長が公園管理運営士、樹木医の資格を所有しているので、現地については、しっかり資格を持った者がマネジメントしていく形になる。本部においても、自然再生士、公園管理運営士、樹木医が配置されているので、タッグを組んで行っていきたい。

### (3) 塚山公園 神奈川県公園協会・県立塚山公園保存会グループ

(委員) 従業員の残業状況について教えてほしい。また、労災についても教えてほしい。

(応募団体) 公園協会職員の残業は所定の時間内に収まっている。塚山公園保存会については、地元の支援団体のため、残業という考え方ではなく、公園の開園時間が就業時間として考えている。現在塚山公園の体制については、公園協会の職員として園長と副園長、また公園管理責任者として塚山公園保存会の30名が管理運営にあたっている。労災については、公園協会職員は、公園協会規定の労災対応になる。保存会については、傷害保険に加入している。

(委員) イベントの人数が昨年に大幅に減少しているが、原因はなにか。

(応募団体) 塚山公園は桜の名所で、毎年4月8日に大きなイベントがあり、さくら祭りは3月20日から4月8日にかけて行っているが、昨年は桜の開花が早く、3月中に見ごろを終えてしまったことがイベント人数の減少につながっている。

(委員) 防災対策について教えてほしい。横須賀は起伏が多く、土砂災害等が想定される。塚山公園ならではの対策はあるか。

(応募団体) 塚山公園内も起伏が多い公園で、現在2箇所の土砂災害危険箇所がある。1箇所は樹林地にあり、園路や広場から離れている。もう1箇所は、芝生広場の近くに危険区域があるので、そこには看板をたて、大雨等の際は通行を遠慮するよう呼びかけを行っている。大雨洪水注意報や台風等の危険がある場合には、事前の見回りを保存会の編成を増員し、平均1日3名が常駐しているところを災害時には、その人数を増やし、対応している。台風のあとには、倒木が多く、2年前の台風被害の際も20本ほど木が倒れ、園路や横須賀市道に被害があったが、保存会の30名がいち早く落枝や道路に滞積する小枝等を除去して、安全な通行ができるよう対応した。

(委員) グリーンエクササイズとはどのようなものか。

(応募団体) 緑の中でのハイキング等を通じた健康プログラムを想定している。ハイカーが多く訪れる公園になるので、塚山公園に来た際に、保存会のメンバーが按針塚や公園のガイドを行うなどの取組をしている。今後は健康に関する新たな取り組みを検討している。事前に予約も受け付けており、幼稚園や小学校の遠足での利用も多い。駐車場は無いが、事前に予約をしていただければ、管理事務所前のスペースを4台程度の駐車スペースとして対応もしている。

(委員) 見えない危険に対する巡視とは。

(応募団体) 毎日3名の常駐職員がおり、まず朝登庁時にパトロールを行っている。横須賀市道の陥没等があれば、公園協会と横須賀市で対応を行っており、園路際の落枝やコケの状況を注視し、清掃を行うなどして事故を未然に防いでいる。

(委員) 桜の巨木化等が懸念されるが、状況はどうか。

(応募団体) 専門家の方々と話しているが、木の病気に対して、耐性のある桜に更新していかなければならないと考えている。デング病等については、保存会の方々がどこに病気が発生しているかいち早く見つけ、処理している状況である。ソメイヨシノだけではなく、他の種を植えることによって耐性に強い桜にしていくことを想定している。指定管理者の範囲では限界もあるので、県とも相談をしている。

#### (4) 観音崎公園① 神奈川県公園協会・京急サービス共同事業体

(委員) 海岸のレジャーにとどまらない提案があったのは、よかったと思う。そのうえで、安全確保の点について聞きたい。三浦半島のトビは人を襲う機会が多いと聞く。特にバーベキューなどのレジャー活動を行う中で、こういったものに対する安全対策をどう考えているのか。

(応募団体) バーベキュー利用者への周知・啓発を徹底していきたいと考えている。我々が現在管理している横須賀地域の公園においても、トビの被害が多数報告されている。利用者の方に向けた看板やホームページで注意を呼び掛けている。そういった取組を行っていききたい。

(委員) 2点、聞きたい。1点目は労務関係であるが、京急サービスは特例子会社か。また、障害者雇用に取り組んでもらっているが、当該公園内で障害者の働く場所はあるのか、ある場合はどういった内容なのか、有給休暇の取得状況はどうか。

2点目は、ドライブインシアターの実現可能性や必要性については、どう考えているのか。

(応募団体) 特例子会社は、京急ウィズである。年休については、各営業所に年休取得の担当をおいて、年休の取得状況を知らせるなど、年休を積極的に取得するよう指導している。ドライブインシアターについては、京急油壺マリンパークでの実績がある。コロナ禍の新しい生活様式の高まりと三密を避ける観点から、ドライブインシアターの需要があると考えている。また、ドライブインシアターの顧客による発信等を通じて、公園自体の認知度向上につなげたいと考えて提案をしている。障害者雇用については、現在、管理している相模原公園で障害者団体と連携して様々な活動をしてもらっている。障害者のつくったものを公園で販売したりしている。

(委員) ドライブインシアターやRVパークの実現可能性は、どう考えているか。

(応募団体) ドライブインシアターについては、各市町村の官庁で実績のある団体と調整をしている。スクリーンは第2駐車場に置くことを想定している。台数は130台のうちの50台くらいを使って10月の三連休の時期に、2日間くらいのイベントとして行うことを計画している。既に他の市町村で行った実績のあるものと、同程度の規模のイベントを考えている。

RVパークについては、コロナ禍で車中泊のニーズが高まっている。京急グループの観音崎ホテル、城ヶ島など、三浦半島に3か所のRVパークステーションをすでに保有している。そうした事業者と連携してRVステーションを実施したいと考えている。実施に際しては、横須賀土木事務所と協議して決めたいと考えている。

(委員) グリーンエクササイズについて詳しく教えてほしい。

(応募団体) 小さな子供から高齢者までいろいろな年代の方が、公園の環境の中で日々体を動かしてもらうことを考えている。簡単なものであれば、毎日のラジオ体操、週1回の横須賀市の行うわいわい横須賀元気体操、月1回程度のヨガ教室やウォーキングイベントを予定している。現在、我々が管理している他の公園でも、講師を呼んで行うアウトドアフィットネスという活動を行っている実績がある。

(委員) 「エコミュージアムとしての再生」との記述があるが、その積算は、収支計画上どこ

に計上されているのか。指定管理期間での年間予算ではどれくらいか。

(応募団体) 造園協同組合、応募団体のグリーンサポート指導員という有資格者による指導等を通じて、植栽管理などの優先度を決めて植物管理を行っていく予定である。年間600万円を植物管理の費用として計上している。その中で、倒木や危険木の発生を防止するために、優先度をつけて未然に剪定等の植物管理を行っていきたいと考えている。

(委員) ドライブインシアターや、RVステーションは収支計画上どこに計上しているのか。

(応募団体) 指定管理収支外の自主事業である。

(委員) 再生可能エネルギー活用について、教えてほしい。

(応募団体) 大口の電力契約については入札での実施だが、現契約相手の東京電力の再生可能エネルギーの比率は約30%である。これを、再生可能エネルギーの比率を高めた電力会社と契約していきたいということである。

#### (5) 観音崎公園② 観音崎パートナーズ

(委員) 第3期目として観光に取り組んでいくということだが、近隣にはソレイユの丘や久里浜緑地といった花の名所がある。観音崎公園を花の名所として、ここでなくては見られない演出・取組をどう考えているのか。

(応募団体) 入口から奥の丘陵地帯にある花の広場まで、途中のアプローチも楽しんでもらえる開花リレーの仕組みを考えている。開花リレーについては、自然にある桜、種や球根から植えた種類の花を対象に、ボリュームではなくコンパクトに楽しめ、また、写真スポットなどを設置するなどの工夫をして、取り組みたいと考えている。

(委員) これまで2期のあいだ指定管理者としてやってきたが、利用者満足度がBで下から2番目の評価となっている。例えば、樹木管理と安全管理の評価が低い。特に樹木管理についてはどう考えているのか。また、提案書には、安全管理について、海岸に近い公園であるのに、津波対策への記載がないが、これについてもどう考えているのか。

(応募団体) 樹木管理については、年1回危険木調査を行い、巨木化したもの、過密化したものや危険木を一覧化・ハザードマップ化して共有し、植物管理の際に活かしてきた。土木事務所にも同じ内容を共有し、優先的に処理すべき木などについて土木事務所とも協議している。津波対策については、東日本大震災のときに現場のスタッフが、公園内にある近くの高台へ、走って逃げるよう誘導するなどした。今後もそういった事態を想定し、定期的に職員の訓練を行っていききたい。

(委員) 植物管理について、安全面だけでなく景観面ではどう考えているか。

(応募団体) この木がなければ、東京湾が見渡せる、スカイツリーや千葉が見えるといった意見が出たことがある。そうした意見を踏まえて、土木事務所と協議し、景観上支障があって必要のない木については、処理していきたい。

(委員) 2019年の労働基準法の改正で、年10日以上の有給休暇取得者については、最低5日以上取得が義務付けられたが、その取得状況はどうなっているのか。また、駐車場の24時間化を行うメリットをどう考えているのか。例えば、夜に利用する人がいるのか。

(応募団体) 有給休暇については、本社で社員それぞれの有給休暇取得カレンダーを作成し、あと何か月で何日間など、適宜各社員に呼び掛けることで有給の取得を管理・促進している。5日の年休取得義務についてはすべての社員が取得している。

駐車場については、現状、営業時間外は無人となっている。人がいないことで、逆に若い人や騒音を出す車のたまり場となっている。24時間化で他のお客さんの目があること、管理用の要員がいることで、防犯・治安の面の改善があると考えている。また、夜の時間帯は、公園利用者と関係がない人が車を止めているという状況があったので、公園利用者が駐車場を使えるという状況の改善にも役立つと思う。24時間化に際しては、現在はないが、入口にゲートをつける予定である。

(委員) 環境学習の出張展示とあるが、パークセンターなどでの出張展示とはどのようなものか。

(応募団体) 観音崎自然博物館で季節によって企画展示を行っている。自然博物館だけでは、せっかく公園に来ていても、知らずに帰ってしまう方が多い。そこで、自然博物館と連携して、ポスターだけでなく、企画展を行っていることをアピールする出張展示を行うことにした。パークセンターだけでなく、たたら浜園地のPark-PFI施設でも、出張展示を行うことを考えている。そういった施設を訪れた方が、自然博物館を利用できるようにしたい。

(委員) 年間10回との記載があったが、出張展示は10回のみではないということか。

(応募団体) そのとおりである。

(委員) 樹林地管理について、台帳を使っているとのことだが、現状は、どのくらいの頻度・費用で行っているのか。

(応募団体) 現在公園のスタッフが16人おり、毎日パトロールをしている。強風等があった次の日などに、変化があったもの、支障がありそうなもの、折れ枝などを、優先的にチェックをしている。こうしたことで、公園の事故等のリスクを低減している。危険木については、安全性・景観等を考慮しながら、土木事務所と協議して伐採するか決めている。

(委員) ナラ枯れ被害が各地で報告されているが、観音崎公園の状況はどうか。

(応募団体) 横須賀地区では、久里浜花の国で、かなりの被害があったと聞いているが、観音崎公園ではそれほど報告されていない。ナラ枯れを発見した場合は、速やかに対処し、伐採をして、幹の部分を焼却処理している。園路から遠い部分の場合などは、土木事務所と協議して、粛々と処理を行っている。現在のところ公園に占める被害面積もそれほど大きくないが、ナラ枯れ被害が拡大した場合に備えた対策をとっている。

(委員) トイレの清掃を基準以上行うと聞いているが、どのように取り組むのか。

(応募団体) トイレの清掃は毎日行っており、パトロールの際に汚れ等を発見した場合には、その都度清掃を行っている。夏場の繁忙期などについては、外部の清掃業者に委託して重点的に清掃を行うなどの対応をしている。

#### (6) 東高根森林公園① (株)石勝エクステリア

(委員) 4月以降、法定障害者雇用率は達成されたが、今後の障害者雇用の方針はどうか。バリアフリー化については、具体的な提案はあるか。

(応募団体) 現在グループ全体で障害者雇用に取り組んでおり、今後も積極的に採用していく予定である。東高根森林公園での採用も考えている。川崎市の指定管理施設では、福祉団体と連携している実績がある。バリアフリーについて、東高根森林公園は非常に起伏が多い公園であるが工夫している。他の指定管理施設では、年1回車椅子に乗って園路等を走行するなど、バリアフリー点検を行っている。チェックリストで修正が必要なものについては、適宜改善していきたい。特にデッキの部分の修正が必要と考えている。また、東高根森林公園は、自然のミュージアムと考えており動植物が豊富であることから、高齢者や障害者に対するそういったものへのアクセシビリティも確保していきたいと考えている。

(委員) 自然環境保全ミーティングについて、東京農大の教授を座長とし、自然団体等をメンバーとするとあるが、一般市民が多いと方針が定まらない可能性も考えられる。メンバーの選定はどう考えているのか。

(応募団体) これまでの管理を検証するために、まずは現在の関わりある環境団体等をメンバーとしたい。さらに有識者に入ってもらい、今までの管理の仕方を尊重しつつ、指定管理者がしっかりとした方針をもって協議することによって、管理の計画を立てて、実施していきたい。そうしたことで、指定管理期間で大きな成果を残したいと考えている。

(委員) 成果についてはどう検証するのか。

(応募団体) 定期的に成果を検証し、外部にもしっかりと広報していきたい。

(委員) 公園の利用を促進するための地域連携については、どう考えているのか。

(応募団体) 東高根森林公園は宮前区の多摩丘陵に位置している。川崎市内には、多摩丘陵の自然・里山ボランティアが多く活動している。そういった団体と連携することで、公園だけでなく多摩丘陵全体を守っていく活動につなげていきたい。また、エリアマネジメントとして、環境団体だけでなく、福祉団体・児童団体等とも連携し、そういった人たちの活動の拠点としても公園を活用していきたい。

(委員) 多数のイベントが計画されているが、周知の方法はどのようなのか。

(応募団体) 公園周辺に8つの自治会があり、その回覧板の活用、区役所の広報紙の活用、地域のタウンニュースの活用、本部のパークプロデューサーによる多様な媒体への働きかけ、川崎市の既存の指定管理施設と連携した周知などを予定している。

(委員) ハザードマップについては、どのように活用するのか。

(応募団体) 指定管理を行っている川崎市緑化センターで作成した実績がある。ハザードマップは、主に公園職員での活用を予定しており、公園利用者が利用する際の危険箇所・施設の老朽箇所などの把握に活用するつもりである。震災等の有事の際には、初動体制に活用することを考えている。スタッフ用のハザードマップだけでなく、公園来園者用のハザードマップも作成し、そうした方々への周知にも利用する予定である。

(委員) 夜間警備の委託先として特定の会社が挙げられているが、毎日警備すると計上されている費用の105万円では、足りないのではないのか。

(応募団体) 105万円は夏季・年末年始繁忙期のみの費用である。365日分の費用ではない。足りない部分は、他の収支で対応できると考えている。

(委員) パークプロデューサーとはどのような位置づけなのか。

(応募団体) 現場ではなく本部に常駐し、1つの公園のことだけを考えるのではなく、第三者的な視点で、他の指定管理施設の公園との連携や他の施設との連携を企画・立案する。また、公園の管理運営の面でも、事業計画書の作成に当たって現場と協議し、適宜指導している。

(委員) 現場には園長がいる一方で、本部にパークプロデューサーがいる。両者の役割分担はどうなっているか。

(応募団体) 月1回、現場と会議して情報共有をし、パークプロデューサーは、包括的・外部的な視点から課題を洗い出し、アドバイスしている。普段の公園管理は、現場のセクションで回すようにしている。現在指定管理をしている鶴間公園とグランベリーモールの連携をパークプロデューサーが提案し、両者の連携につなげたという実績がある。東高根森林公園でも、同様の実績をあげたいと考えている。

(委員) 樹木管理に、音響波診断装置を使用するとあるが、どのようなものか。

(応募団体) 自社で所有している機械である。木を切ることなく、音波で生育状況の健全度を把握できる非破壊検査装置である。東高根森林は樹木が豊富であるので、本公園でも役立つものと考えている。

(7) 東高根森林公園② 東高根森林公園パートナーズ

(委員) 以前は森林セラピーとの名称だったが、今回はすこやか自然体験という名称になっている。これまでの課題とそれを踏まえた改善について伺いたい。

(応募団体) セラピーという言葉が使えなくなった。また、今までの経験を踏まえ、だれでも参加できるものにするために、このような形になった。

(委員) 医療系スタッフの確保が難しかったということか。

(応募団体) そのような事情もあるが、だれでも参加できるようにした面もある。

(委員) 血圧計の設置は、医療系スタッフがいなくてよいのか。

(応募団体) 血圧計は誰でも使えるものである。自分自身で血圧の状態を把握して、健康管理に活かしてもらうということ。

(委員) 収支計画の植物管理の費用が他と比較すると年間 300 万というのは少ないのではないか。

(応募団体) これまで同様の費用で行ってきた。造園業者の三宝緑地と連携して、適切に管理している。

(委員) 勤務ローテーションで、土・日の人数が少ない理由は何か。

(応募団体) 土・日は来園者が多く、また近隣への騒音の関係から機械作業ができないため、清掃作業が中心で、人数が少なめになっている。逆に平日には、機械作業を行うために人数が多くなっている。

(委員) 自主事業でドッグランの設置が盛り込まれている。確かにこの公園は犬の散歩が多い。ドッグランがあると犬を連れた利用者が増えるが、マナー教室の実施などについてはどう考えるか。

(応募団体) 指定管理をしている新杉田公園で、ドッグランを設置しているが、マナー教室を適宜実施して飼い主のマナーのレベルアップを図っている。東高根森林公園でも、現在もマナー

教室を行っており、今後も継続していきたい。ドッグラン設置後も、他の利用者との共存を図っていきたい。

(委員) 障害者雇用に積極的に取り組んでおり、神奈川県のアート企業に認定され、第三者評価も実施しているようだが、今後の障害者雇用の取組について、どう考えているか。また、駐車場の24時間化の提案があるが、現在の状況とメリットについて聞きたい。

(応募団体) 現在、東高根森林公園では障害者の雇用実績がないが、他の県立公園では雇用実績がある。今後も積極的な雇用に努めたい。駐車場については、現在営業時間外は門を閉めているが、24時間化によりゲートが開いていることになり、災害時の地域の避難場所として機能するメリットが考えられる。

(委員) 駐車場の24時間化により、かえって人がいることによる騒音など、生活環境の悪化が考えられるが、その点はどうか。

(応募団体) 現在、夜間警備は半年間だが、24時間化にあわせて365日の夜間警備とする予定である。夜間に騒ぐ人がいたりした場合などは、警備員が注意喚起等を行うことで、問題はなくなると考えている。

(委員) 災害対応で7人が30分以内に公園に参集できる体制とある。これらの方は、普段は近隣に居住しているのか。

(応募団体) そのとおりである。近隣に居住し、30分以内に参集できるものを現地雇用している。

(委員) 現在、指定管理を行っているが、その中での樹林地の課題はどう考えているか。

(応募団体) 公園開設から40年が経過し、高木化や密集化が課題となっている。15年間管理してきた実績を踏まえ、適切に管理を実施していきたい。

(委員) ナラ枯れの状況はどうか。

(応募団体) 107本が感染し14本を除去した。今後も土木事務所と連携し適切に対応したい。

(委員) 被害の中心は、コナラやマテバシイか。

(応募団体) ピクニック広場のクヌギで多く発生している。予防策としてシートを巻くなどしている。

(委員) ナラ枯れの発生時期はいつからか。

(応募団体) 昨年ころからである。

### 3 協議について

2の内容をもとに応募団体の提案等の評価を決定するための協議を行った。